

令和8年度 会津教育事務所 指導の重点【前期】

第7次福島県総合教育計画

令和8年度学びの変革推進プラン

会津の強み

【令和7年度の学校訪問や各校の学力向上の取組、各種研修会協議から】

- 1 「授業改善グランドデザイン」や『『学びの変革』授業デザイン』を活用しながら、主体的・対話的で深い学びの視点に基づいたICT活用等の工夫による授業展開など、教職員が一丸となって授業改善に取り組んでいる学校が増えている。
- 2 生徒指導の機能やユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりにより、すべての児童生徒の心理的安全性を高める授業や「分かる・できる」授業を目指した授業が増えている。また、児童生徒のよさを生かした教師のコーディネートが多く見られる。
- 3 各中学校区内における学校間の連携体制・協体制が確立しており、学力向上対策や生徒指導対策について、継続的な指導・支援の推進が図られている。また、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）等を中心に、地域との連携推進が図られている。

会津の課題

【令和7年度全国学力・学習状況調査結果、学校訪問等から】

- 1 全国学力・学習状況調査において全国平均正答率と比較すると、小・中学校とともに各教科において平均正答率が下回っている状況にある。ふくしま学力調査においては、小4では国・算とも県平均を上回っているが、小5以降は県平均を下回っている状況にある。
- 2 「深い学び」の達成に向けた授業改善が必要であり、これまで以上に育成すべき資質・能力を明確にし、「みる・きく・つなぐ」の授業観による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくりが求められる。
- 3 不登校児童生徒が年々増加傾向にあり、1,000人あたりの出現率が全国平均や県平均を上回る状況が見られるため、授業をはじめとする学校教育全体の魅力化や、一人一人の児童生徒への寄り添い、関係機関との連携などのさらなる促進が求められる。

学びをつなぐ・育ちをつなぐ会津の教育

確かな学力

1 主体的・対話的で深い学びの実現

- 「学びの変革」授業デザインに基づく授業づくり
 - ① 「観」をとらえ直す。
 - ② 創意工夫のある単元「題材」づくり
 - ③ 授業段階の重点「学び出す」「学び合う」「学びとる」
 - ④ 「学び続ける」ための視点、自己マネジメント力の育成
- 「指導の重点（小・中学校教育版）」の活用
 - ・ 各教科等の授業の設計・実施・評価の工夫

2 学習の連続性をもたせる基盤づくり

- 「家庭学習スタンダード」に基づく自己マネジメント力の育成
 - ① 授業の学習内容の定着を図る家庭学習
 - ② 家庭学習（復習、予習）を効果的に活用した授業の実施

3 学力向上対策の組織的な推進による授業改善

- 全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査の結果分析と活用（授業改善グランドデザイン参照）
 - ・ 客観的データに基づく実効性ある改善策の実施
- 教師が「話す」授業から、教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業への転換（授業改善グランドデザイン参照）
- 「ふくしま活用力育成シート」、「キビタンシート」の活用
- ICT機器等を効果的に活用した学びの充実

4 カリキュラム・マネジメントの充実

- 育成を目指す資質・能力の明確化と教育課程の意義の共有
 - ・ 教科等横断的な視点による教育計画の作成と実施

5 教科の指導と生徒指導の一体化

- ① 自己存在感の感受
- ② 共感的な人間関係の育成
- ③ 自己決定の場
- ④ 安全・安心な「居場所づくり」

居場所づくりと絆づくり

1 不登校の未然防止・早期発見・早期対応

- 「ふくしまサポートガイド」の活用
 - ① 教師による「居場所づくり」と児童生徒による「絆づくり」を中心とした心理的安全性の確保
 - ② PDCAサイクルによる援助
 - ※アセスメントシート（個別援助計画）の活用
 - ③ より機能的な関係機関との連携及び校種間連携
 - ※「子どものSOSをより早く気づくために」（会津教育事務所作成）の活用
 - ④ 「特別な教室」設置やICT活用による学習機会の確保
 - ⑤ 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）に基づいた「チーム学校」による支援

2 いじめ見逃しゼロ

- ① 組織による積極的な認知と早期対応
- ② アンケート調査や面談等による状況把握とチーム学校による具体的対応

3 情報モラル教育の充実

- 「ふくしま情報モラル診断」を活用したSNS利活用の適正な考え方や態度の育成
 - ① アンケートによる児童生徒の実態把握
 - ② 回答の分析による問題行動や課題の発見

4 心に響く道徳教育

- ① 学校、家庭、地域が一体となった道徳教育の推進
- ② 児童生徒が自己を見つめる時間を重視した授業づくり

共に学び、共に生きる教育

1 校内支援体制の充実

- コーディネートハンドブック【2025年版】の活用
 - ① 特別支援教育コーディネーターを核としたケース会議や校内研修の充実
 - ② 児童生徒、保護者との合意形成に基づく「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成と活用、引継ぎ
 - ③ 上記計画を活用した交流及び共同学習の充実
 - ④ 教育的ニーズの整理の仕方
- 研修パッケージの活用（県特別支援教育センター）

2 ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

- ・ 教室の環境整備やつまずきを想定した手立ての工夫
- ・ 認め合い、助け合い、高め合う学級の支持的風土づくり

健やかな体

1 体力向上と健康推進

- 「自分手帳」の活用による健康マネジメント能力の育成
 - ① 体力向上推進計画の見直しと評価・改善
 - ② 適切な運動量が確保された息も心も弾む授業の工夫

2 教育活動全体による食育の推進

- ① 肥満防止などの望ましい食習慣の育成
- ② 栄養教諭等の専門家派遣事業の活用

育ちをつなぐ学び

1 キャリア教育の推進

- 「キャリア・パスポート」の活用
 - ① 成長の振り返りや将来の生き方を考える学びの充実
 - ② 学年・校種間・高等学校への引継ぎと実践的な活用

2 幼保小連携の推進

- ① 「福島県幼児教育振興指針」に基づく、小中学校につながる豊かな遊びを通じた学びの充実、非認知能力の育成
- ② 幼小の架け橋期に係るカリキュラム作成
- ③ 家庭、地域、関係機関との連携の充実